

9月1日時点の就職活動調査

2016年卒業予定者の採用面接が正式に解禁されてから1カ月が経過し、就職採用戦線は大きな山を越えたようだ。9月1日現在の日経就職ナビ・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は8割を超えたことが分かった。

1. 9月1日現在の内定状況

- 内定率は82.3%。8月(67.3%)より15ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは80.2%。継続は15.5%

2. 9月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

- エントリー平均62.0社、前年度の7割の水準。選考試験社数は前年度並み

3. 就職活動継続者の動向

- 就職活動のターゲットは、「大手中心」が減少し、「規模こだわらない」が大幅増加
- 就職活動を終えたい時期は、9月が過半数。一方「卒業までに」など期限を延ばす動きも

4. 就職決定企業の規模

- 従業員1000人以上の大手企業への就職が70.9%。前年度より5.3ポイント増加

5. 就職決定企業の業界

- 文系は「銀行」「情報処理」「運輸・倉庫」。理系は「電子・電機」「情報処理」「医薬品」

6. 就職決定企業へのエントリー時期

- 「3月」が60.9%で、採用広報開始月への集中度が前年度より上昇

7. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

- 「選考中」が29.7%で最多。「インターンシップ参加時」が前年度の約2倍に

8. インターンシップ参加企業の採用選考への応募と内定

- インターン参加企業の採用選考への応募は58.3%。応募者の44.8%が内定獲得

9. 就職活動の難易度

- 未内定者の8割(79.3%)が、就職活動「厳しい」と回答

10. スケジュール繰り下げへの意見

- 「メリット感じる」7.6%にとどまる。「計画立てにくい」80.7%、「卒論に支障」65.7%

《調査概要》

調査対象 : 2016年3月卒業予定の全国の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
 回答数 : 1,454人(文系男子470人、文系女子402人、理系男子390人、理系女子192人)
 調査方法 : インターネット調査法
 調査期間 : 2015年9月1日~7日
 サンプルング : 日経就職ナビ2016就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505/株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。
 日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 9月1日現在の内定状況

9月1日現在の学生モニターの内定率は82.3%。前回調査(今年8月)の67.3%から1カ月で15ポイント伸び、8割を超えた。昨年の同じタイミング、つまり選考解禁1カ月後の5月時点の内定率は58.9%と半数強で、「最初の山場」に過ぎなかったが、今年の場合は選考解禁が4カ月繰り下がったことで、早期内定組に大手企業の内定が加わり、この8月が大きな山となった。

内定率を文理別に見ると、文系は男女とも7割台であるのに対し、理系では男女とも8割を超えており、引き続き先行している様子が表れている。

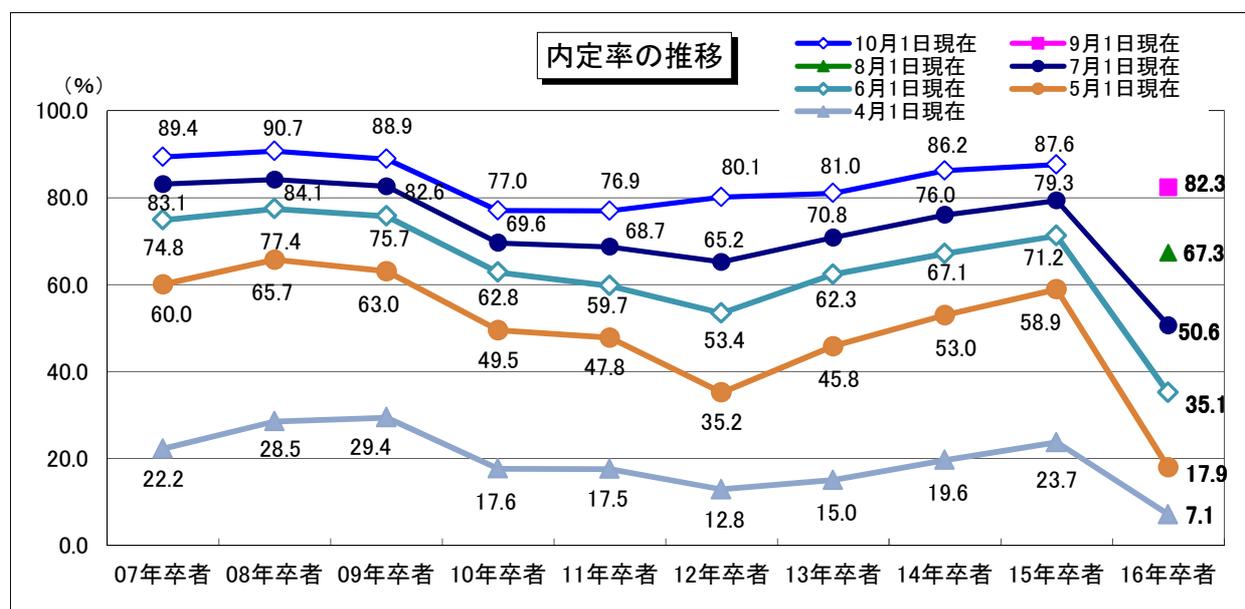
内定者1人あたりの平均内定社数は2.4社と極めて多く(前年5月調査では1.9社)、内定者の6割(60.9%)が2社以上から内定を得ている重複内定者となった。(表とグラフは次ページ)

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了した者の割合は80.2%。8月調査では45.0%だったのが一気に8割を超えた。本命企業の選考結果が出たことで活動を終える学生が増えたと考えられる。内定を持ちながらも就職活動を継続している学生は15.5%おり、未内定学生とあわせると、この時点での就職活動継続者は30.4%となる。(グラフは次ページ)。

9月1日現在の内定状況 *「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		82.3 (67.3)	79.8 (65.3)	79.9 (62.2)	84.4 (70.6)	89.6 (76.4)
内定なし		17.7 (32.7)	20.2 (34.7)	20.1 (37.8)	15.6 (29.4)	10.4 (23.6)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	80.2 (45.0)	76.5 (31.7)	73.5 (36.2)	86.3 (57.6)	89.0 (63.7)
	終了したが複数内定保持	3.7 (4.3)	4.0 (4.6)	5.3 (4.6)	3.3 (4.1)	0.6 (3.4)
	進学などの理由で活動を中止	0.7 (0.5)	0.3 (0.0)	0.0 (0.4)	2.1 (0.7)	0.0 (1.4)
	就職活動継続	15.5 (50.2)	19.2 (63.7)	21.2 (58.8)	8.2 (37.6)	10.5 (31.5)

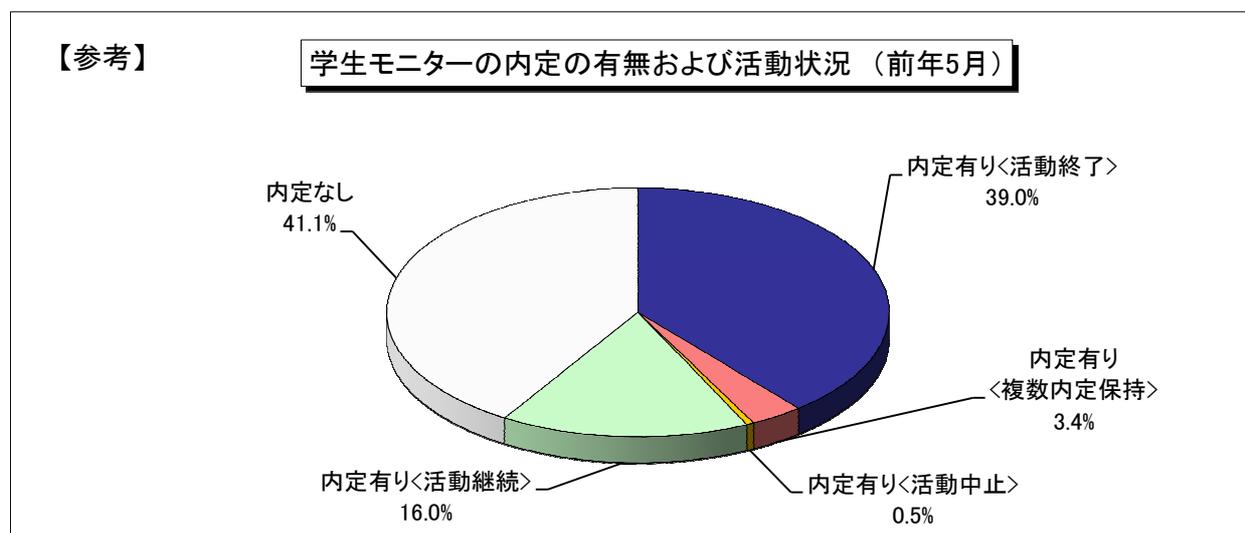
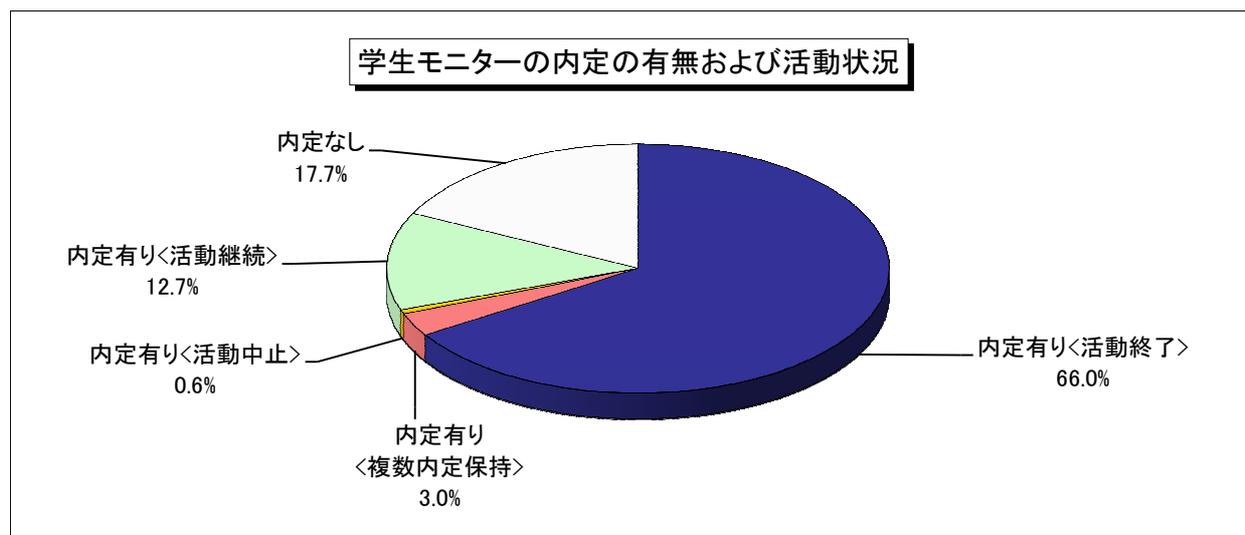
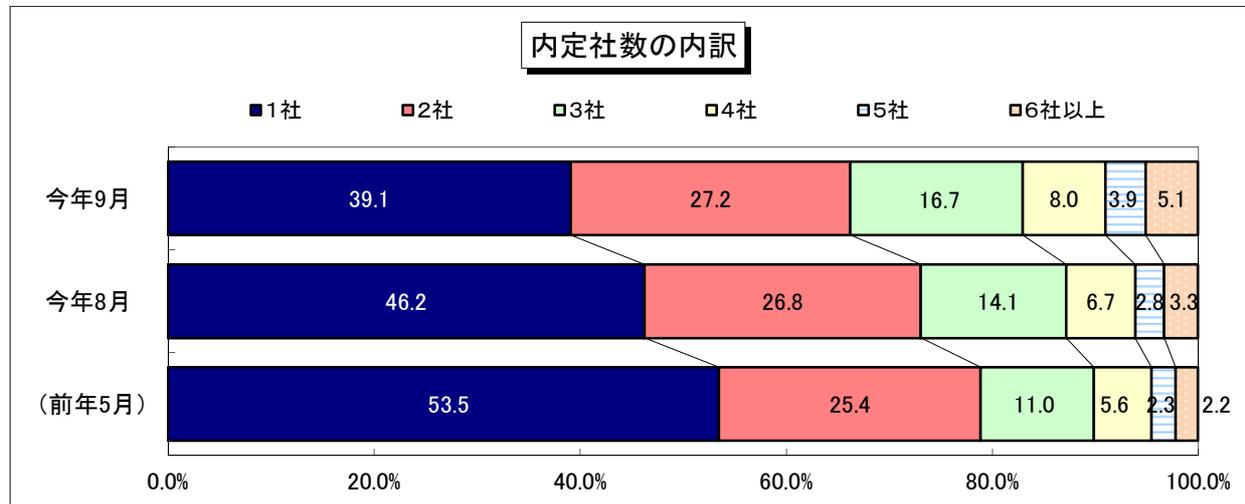
※()内は2015年の同調査での8月1日現在の数値



(社)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数／平均	2.4 (2.1)	2.7 (2.5)	2.3 (2.0)	2.1 (1.9)	2.2 (2.0)

※()内は 2015 年の同調査での 8 月 1 日現在の数値



2. 9月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

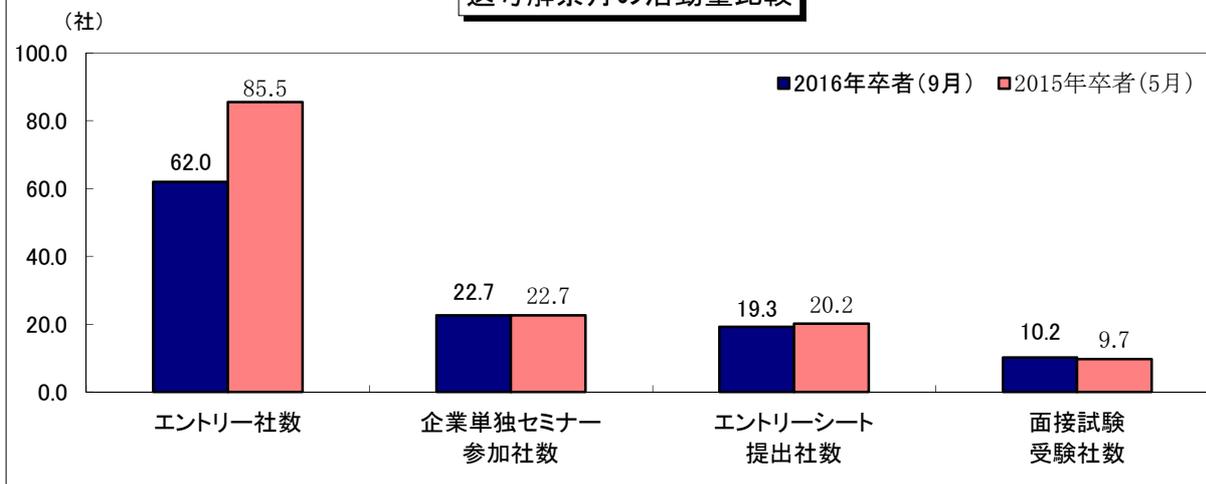
9月1日現在の活動量を表にまとめた。一人あたりのエントリー社数の平均は62.0社で、先月(今年8月)時点の59.9社から2.1社微増した。昨年度の選考解禁翌月(2014年5月)のエントリー社数は85.5社であり、3割近く少ない計算になる。今期は就職活動解禁当初(2015年3月)から一貫して、例年の同じタイミングよりも2~3割程度少ないエントリー社数のまま推移してきた。原因は様々であろうが、学生に有利な売り手市場下にあつて、幅広く就職先を考えようとする学生が少なかったのではないだろうか。

企業単独セミナーの参加社数は22.7社、エントリーシート(ES)提出は19.3社と、これらについては前年5月実績(22.7社、20.2社)と同水準を保ち、実際の活動量は昨年と大きな変化は見られない。また、筆記試験や面接試験などの選考試験受験社数についても、前年5月実績と同水準。エントリー社数が大きく減る一方で、エントリー後の活動量は例年並みであり、効率よく活動している、とも言える。

9月1日現在の就職活動の状況

	全 体	今年8月	前年5月	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	62.0	59.9	85.5	72.0	67.4	46.2	58.1
セミナー・説明会参加 (社)	53.0	51.8	51.0	59.5	60.0	41.7	45.3
企業単独開催のもの (社)	22.7	21.9	22.7	26.8	25.2	16.1	20.8
合同開催のもの (社)	15.9	15.7	15.3	17.4	19.5	12.1	12.1
学内開催のもの (社)	14.5	14.2	13.0	15.4	15.3	13.5	12.3
オンラインセミナー視聴 (社)	7.5	7.0	6.2	8.5	6.8	7.1	7.3
ライブ中継 (社)	4.1	3.6	3.2	5.0	3.7	3.6	3.8
オンデマンド(録画) (社)	3.4	3.4	3.0	3.5	3.1	3.5	3.5
エントリーシート提出 (社)	19.3	17.9	20.2	21.6	20.5	15.0	19.9
選考試験の受験社数 (社)	28.4	25.5	28.0	32.0	29.8	23.4	26.3
筆記・WEB試験 (社)	13.6	12.5	13.7	15.3	14.3	11.1	12.5
面接試験 (社)	10.2	8.9	9.7	11.4	11.0	8.4	8.9
グループディスカッション (社)	4.6	4.2	4.6	5.2	4.5	3.8	4.9

選考解禁月の活動量比較

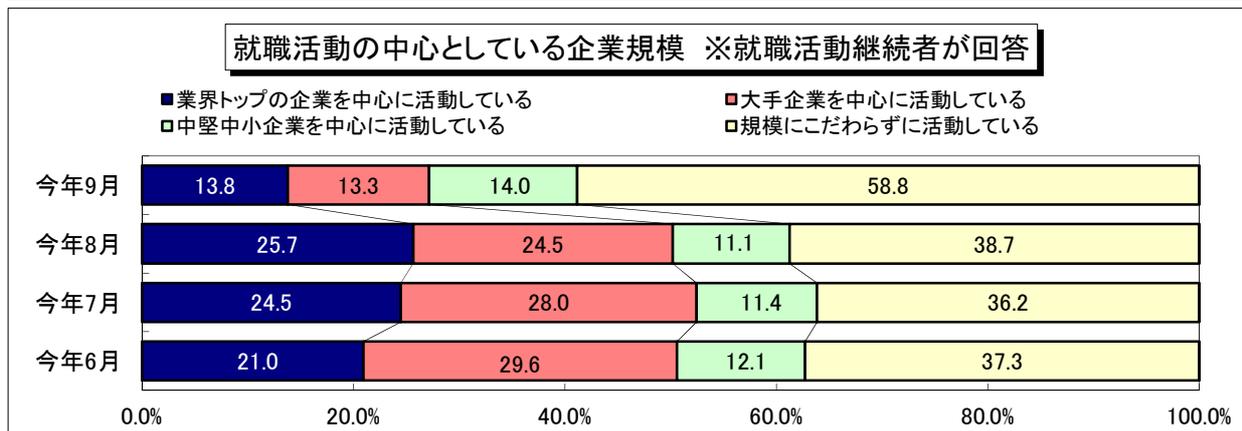
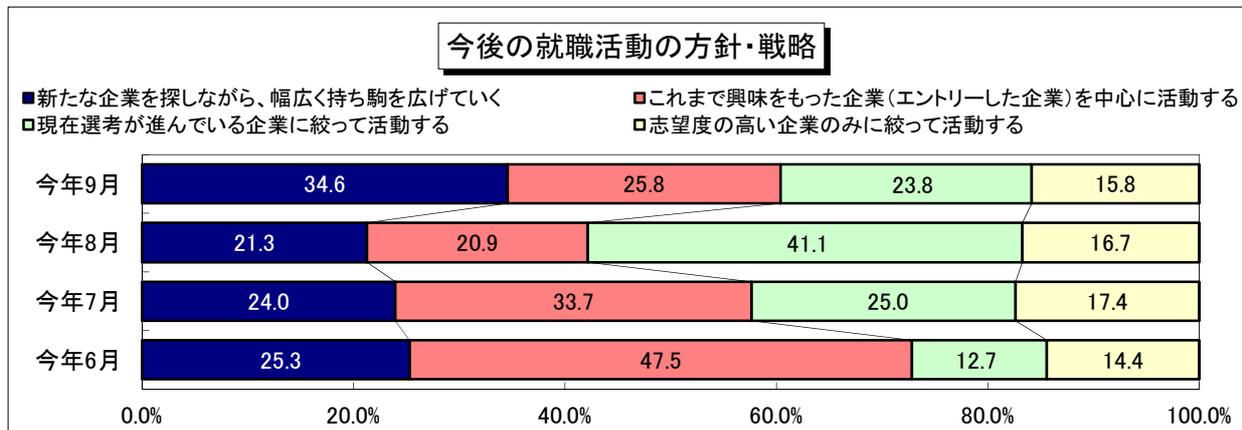
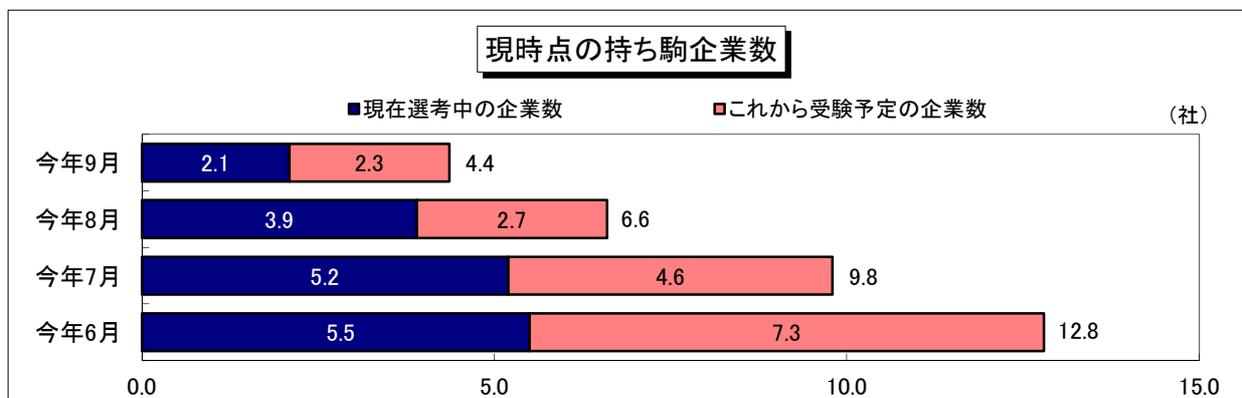


3. 就職活動継続者の動向

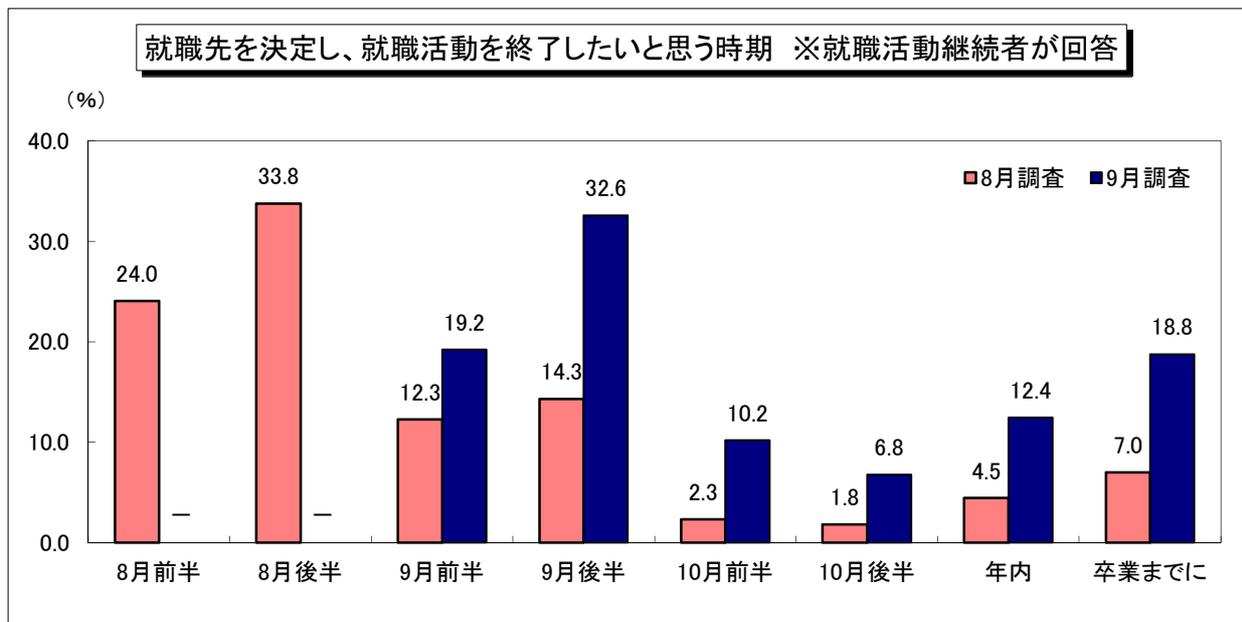
ここからは就職活動継続者の動向を見ていく。内定保持者も含め、9 月 1 日現在で就職活動を継続している学生（モニター全体の 30.4%）の、現在選考中の企業数は平均 2.1 社。これから受験する予定の企業数は 2.3 社。いわゆる「持ち駒企業」をあわせて 4.4 社となっている。持ち駒企業の数には月を追うごとに徐々に減少している。

今後の就職活動の方針・戦略については、「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」という回答が 8 月調査（21.3%）よりも大きく増え、初めて 3 割を超えた（34.6%）。就職活動の中心としている企業の規模についても、8 月調査までは大きな変化はなかったが、9 月調査では大手狙いが大きく減少し、「規模にこだわらない」が大きく増えた。大手企業の中には応募を締め切っているところも多く、中堅中小企業を視野に入れて活動する学生が増えたことが分かる。

就職活動序盤から志望先を絞り過ぎて思うような結果を出せなかった学生が、まさに方向転換を図ろうとしている様子が見てとれる。大手落ちの学生らが後半戦どう動くか注目したい。

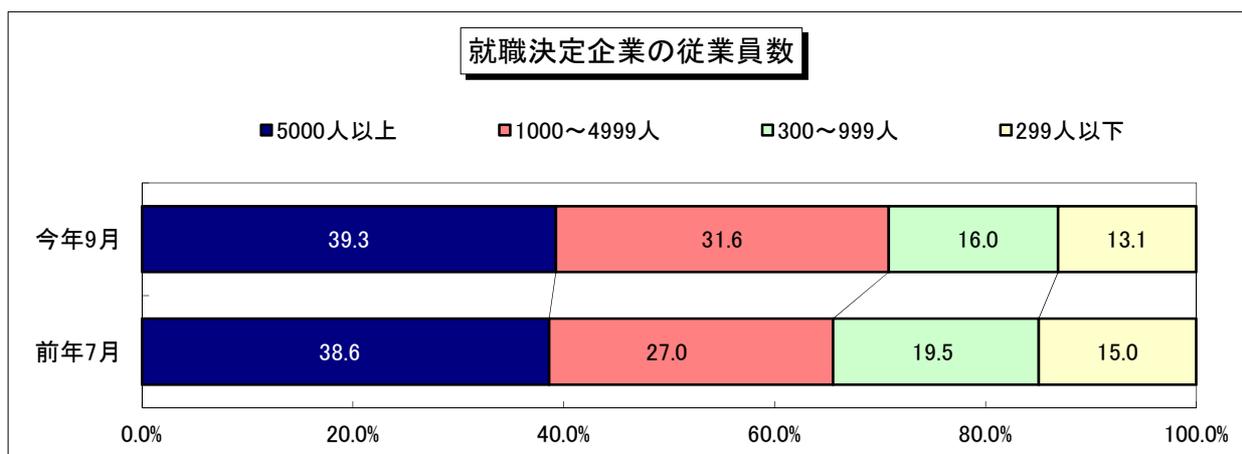


就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ね、8 月調査の結果と重ねてみた。
 今回最も多かったのは「9 月後半」の 32.6%で、「9 月前半」が 19.2%で続き、10 月 1 日の正式内定解禁日までには就職先を決めたいと考える学生が依然多いことが分かる。一方で、「年内」(4.5%→12.4%)、「卒業までに」(7.0%→18.8%) と、遅い時期の回答が増え、期限を延ばす動きも出てきた。卒業までに就職先をじっくり選びたいという意向が見られる。



4. 就職決定企業の規模

ここからは、就職活動終了者（モニター全体の 66.0%）のデータを見ていこう。まず、就職決定企業の規模について尋ねた。従業員数が「1000～4999 人」と「5000 人以上」の割合を合計すると 70.9%となった。前年度調査では 65.6%であり、大手企業の割合が 5.3 ポイント増加した。



5. 就職決定企業の業界

就職決定企業の業界と就職活動解禁時(2015年3月調査)に志望していた業界とを比較してみた。

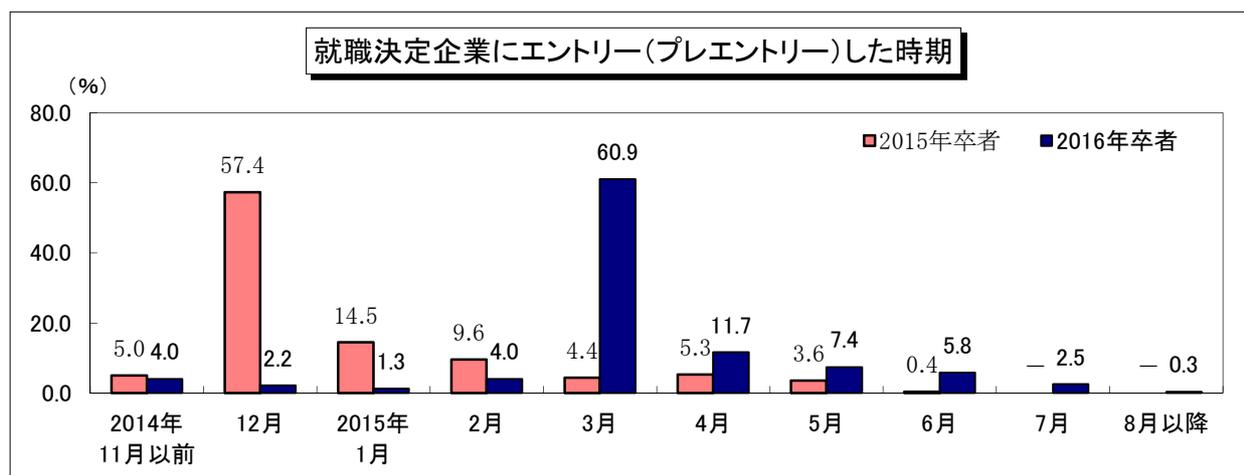
文系においては、就活解禁時に志望していた業界と、実際に決定した業界の1位はともに「銀行」で、人気の強さを裏付ける。理系においては、就活解禁時の志望では4位だった「電子・電機」が1位となり、当時1位だった「医薬品・医療関連・化粧品」は就職決定業界では3位だった。例年理系学生の多くが就職先として選び、昨年まで3年連続1位だった「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」は、今年は5位となった。ただし、「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」は、文理ともに就活スタート時の志望よりも最終決定後のほうが順位が高くなる業界の代表であることに変わりはない。採用数が多く、特に今年は早期から動く企業が多かったため、就職活動を進めるうちに就職先として意識していくケースが多かったことが推測できる。

文 系		理 系	
就職解禁時の志望 業界 (第1志望)	%	就職決定企業の 業界	%
1位 銀行	9.6	1位 銀行	14.7
2位 マスコミ	9.2	2位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.5
3位 官公庁・団体	8.3	3位 運輸・倉庫	6.1
4位 運輸・倉庫	7.1	4位 商社(専門)	5.7
5位 水産・食品	5.5		保険
6位 商社(総合)	5.1	6位 官公庁・団体	5.0
7位 保険	4.9	7位 電子・電機	4.6
8位 建設・住宅・不動産	4.5	8位 マスコミ	4.0
9位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	3.6	9位 建設・住宅・不動産	3.8
10位 調査・コンサルタント	3.2	10位 自動車・輸送用機器	3.4
11位 エネルギー	3.0	11位 機械・プラントエンジニアリング	2.9
	情報・インターネットサービス	3.0	12位 その他サービス
13位 素材・化学	2.9	13位 コンビニエンス・GMSストア	2.3
14位 商社(専門)	2.8	14位 情報・インターネットサービス	2.1
15位 医薬品・医療関連・化粧品	2.6		調査・コンサルタント
	電子・電機	2.6	16位 信用金庫・労働金庫・信用組合
17位 自動車・輸送用機器	2.0	17位 証券・投信・投資顧問	1.7
18位 その他サービス	1.8		専門店
	ホテル・旅行	1.8	通信関連
20位 機械・プラントエンジニアリング	1.7	20位 エネルギー	1.5
		素材・化学	1.5
		1位 医薬品・医療関連・化粧品	11.7
		2位 水産・食品	9.6
		3位 素材・化学	9.3
		4位 電子・電機	7.7
		5位 官公庁・団体	6.7
		6位 自動車・輸送用機器	6.5
		7位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	6.0
		8位 建設・住宅・不動産	5.7
		9位 運輸・倉庫	4.1
		10位 情報・インターネットサービス	4.0
		11位 機械・プラントエンジニアリング	3.3
		12位 エネルギー	2.8
		13位 調査・コンサルタント	2.4
		14位 精密機器・医療用機器	2.2
		15位 マスコミ	2.1
		銀行	1.7
		16位 通信関連	1.7
		保険	1.7
		19位 農業・林業・鉱業	1.4
		OA機器・家具・スポーツ・玩具他	1.2
		20位 教育	1.2
		商社(総合)	1.2
		1位 電子・電機	11.7
		2位 自動車・輸送用機器	9.4
		3位 医薬品・医療関連・化粧品	8.9
		4位 素材・化学	7.8
		5位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	6.6
		6位 建設・住宅・不動産	5.7
		7位 機械・プラントエンジニアリング	5.5
		8位 水産・食品	5.0
		9位 官公庁・団体	4.6
		10位 運輸・倉庫	3.0
			調査・コンサルタント
		12位 その他サービス	2.5
		12位 精密機器・医療用機器	2.5
		鉄鋼・非鉄・金属製品	2.5
		15位 情報・インターネットサービス	2.3
		16位 エネルギー	2.1
		16位 保険	2.1
		18位 通信関連	1.8
		19位 銀行	1.6
		証券・投信・投資顧問	1.6

※上位 20 業界を掲載

6. 就職決定企業へのエントリー時期

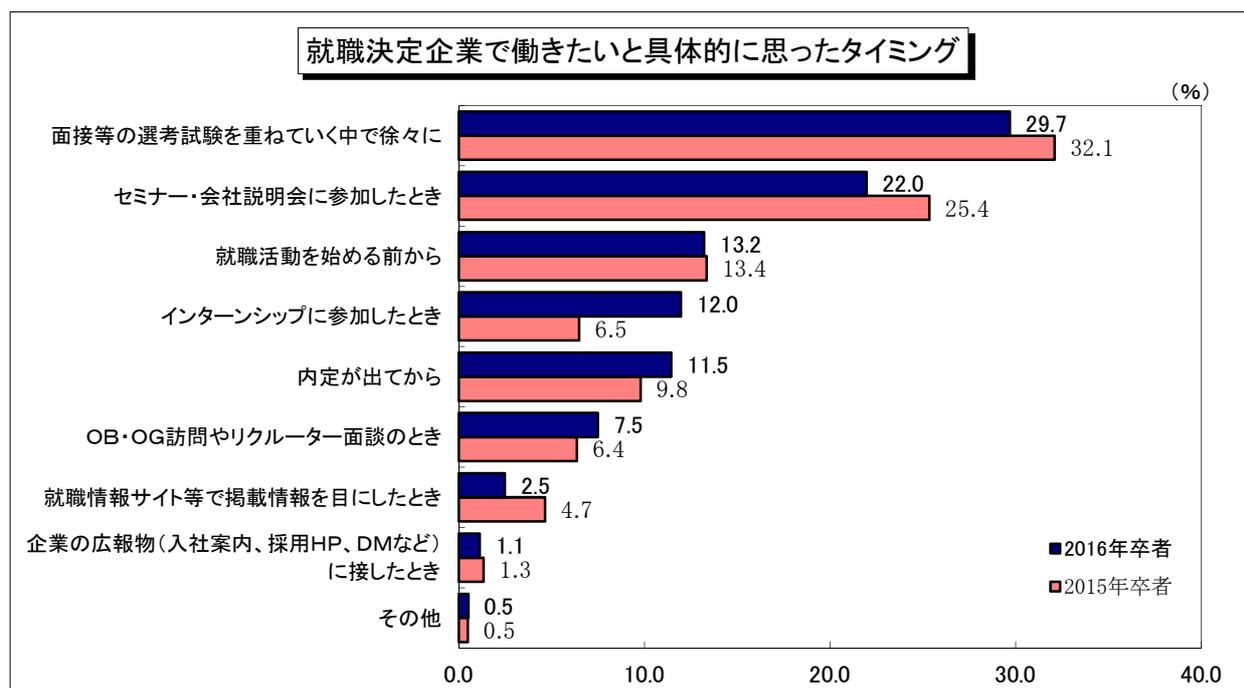
就職決定企業にいつごろエントリーをしていたのかを尋ねたところ、就職情報サイトがオープンするなど、採用広報開始時期である「3月」との回答が6割を超えた(60.9%)。前年度も採用広報開始時期(12月)に集中していたが、より集中度合いが高まる結果となった。現在就職先が決まっている学生の多くは、就職活動開始当初に志望していた企業を中心に活動を展開し、そのまま内定に至っている様子が見えてくる。企業としては、早めの情報公開が望ましいと言える。



7. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

就職決定企業で働きたいと具体的に思ったのはいつか、そのタイミングを尋ねたところ、「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」が前年に引き続き最も多く(29.7%)、次いで「セミナー・会社説明会に参加したとき」(22.0%)が続くが、ともに前年調査よりポイントを下げている。

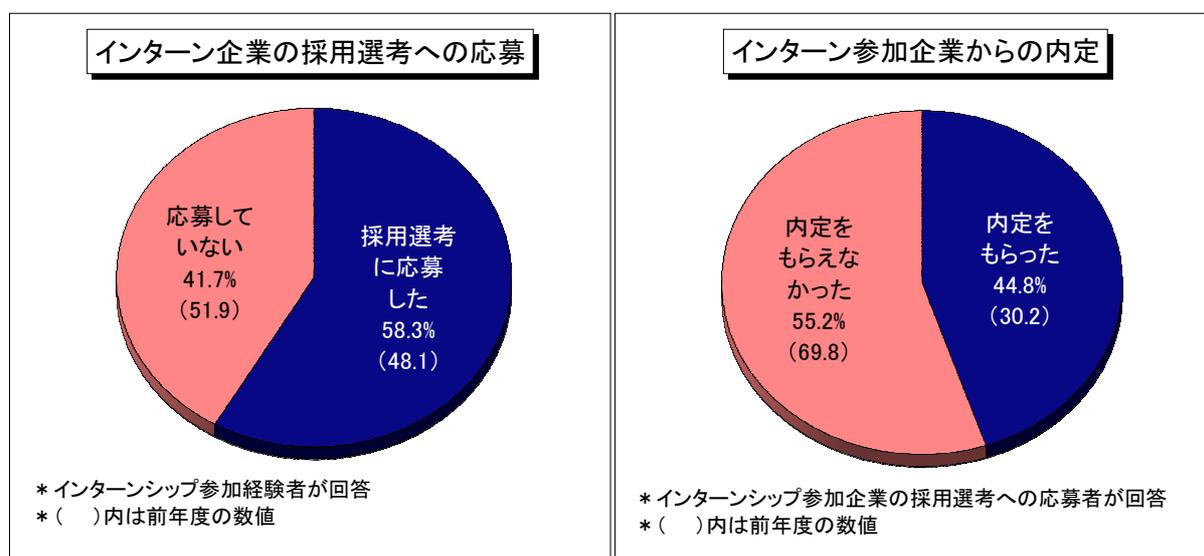
一方、「インターンシップに参加したとき」が前年の6.5%から12.0%へと2倍近く伸びているのが目立つ。「内定が出てから」も9.8%から11.5%へ約2ポイント上昇した。



8. インターンシップ参加企業の採用選考への応募と内定

就職活動開始時期の繰り下がり、今年はインターンシップを経験する学生が大きく増えたが、インターンシップ参加企業の採用選考（本選考）に応募した学生はどの程度いるのだろうか。インターンシップ参加経験のある学生（今回調査では全体の 77.9%）に尋ねたところ、「採用選考に応募した」との回答は 58.3%で、前年度の学生（48.1%）より 10 ポイント余り増えた。

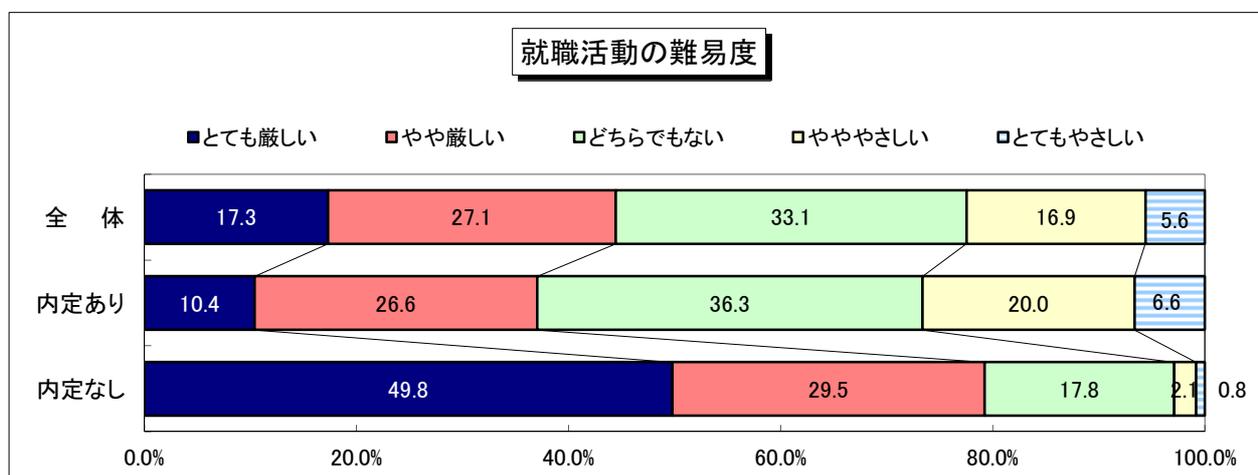
応募者のうち、実際に内定をもらった経験を持つのは 4 割を超える（44.8%）。前年度は約 3 割だったので（30.2%）、15 ポイント近く増えた計算になる。複数企業のインターン経験を持つ学生が増えたため、内定獲得学生の割合が増したという面はあるが、かなり高い確率で内定まで結びついていることに驚く。インターンシップ参加企業から内定をもった学生のうち、「インターンシップ参加企業に就職する」と回答した者の割合は 60.0%に上る。



9. 就職活動の難易度

ここまでの自身の就職活動を振り返ってもらったところ、「とても厳しい」「やや厳しい」の合計は 4 割強（44.4%）で、「やさしい」の合計 22.5%の約 2 倍に上った。学生優位の売り手市場と言われ、チャンスの多い年にもかかわらず、厳しいと感じている学生は少なくない。

このデータを内定有無別に見ると、内定のない学生では「厳しい」との回答が 8 割に迫り（79.3%）、一層厳しさが際立つ結果となった。自身の見立ての甘さを痛感する声が多くみられた。



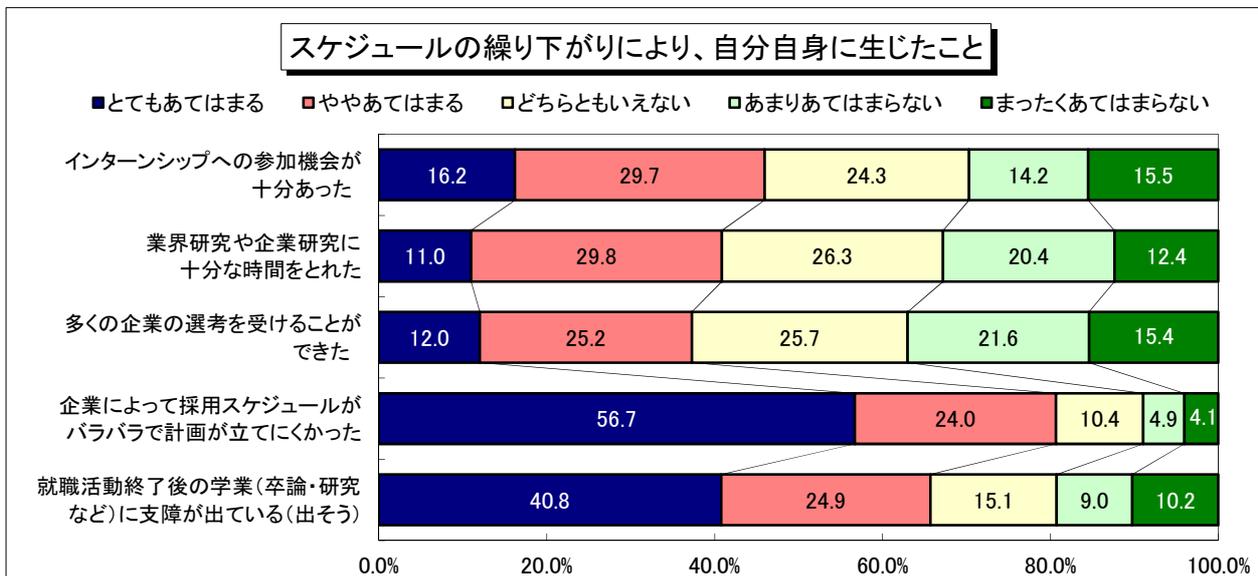
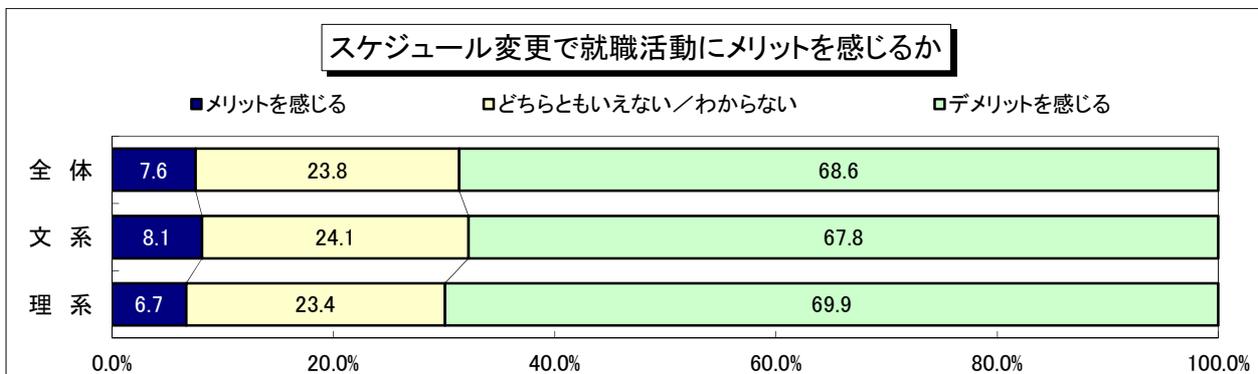
10. スケジュール繰り下げへの意見

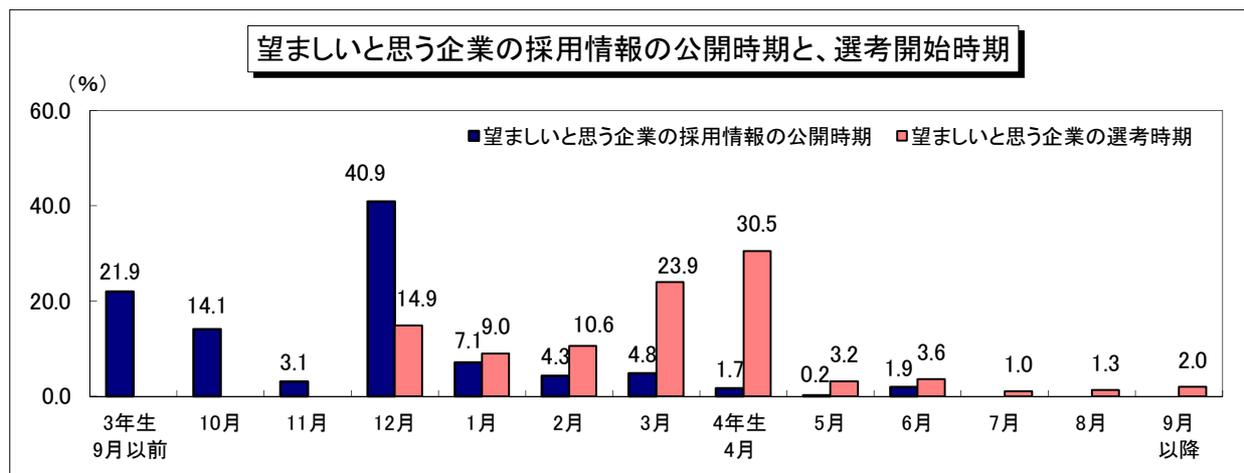
就職活動のスケジュールが大きく繰り下がったことを、学生はどう評価しているのかを調べた。自身の就職活動に「メリットを感じる」という者は1割に満たず(7.6%)、「デメリットを感じる」が7割弱を占めた(68.6%)。今回の変更は学生のために行われたにもかかわらず、デメリットのほうが大きいと認識している現状が浮き彫りとなった。

政府から示されたスケジュールに対応した企業とそうでない企業とで選考日程にばらつきが生じたことで「企業によって採用スケジュールがバラバラで計画を立てにくかった」と感じる学生は8割を超え(80.7%)、また例年よりも終了時期が遅いことで「就職活動終了後の学業(卒論・研究など)に支障が出ている(出そう)」という学生が65.7%に上る。

一方で、「インターンシップへの参加機会が十分あった」や「業界研究や企業研究に十分な時間をとれた」にあてはまると回答した学生はそれぞれ45.9%、40.8%で、あてはまらないと回答した学生を上回り、一定の評価は得られている。「多くの企業の選考を受けることができた」は半々に分かれた。

企業の採用情報はいつ頃から公開されるのが望ましいかを尋ねると(グラフは次ページに掲載)、最も多いのは「3年生の12月から」(40.9%)で、「3年生の9月以前から」(21.9%)が続く。9割強(91.4%)が現状の採用広報開始時期(3年生の3月)よりも早い公開を望んでいる。選考開始時期については「4年生の4月から」(30.5%)、「3年生の3月から」(23.9%)の順で、現状(4年生の8月)よりも早い時期を望む声は96.7%に上る。





■繰り下げにより自身に生じたこと

- 結局春休みと夏休みは就職活動で潰れ、前期の授業も就職活動の予定が読めないので取りたい授業が取れず何もできなかった。 <文系男子>
- 意識の高い人は、みんな3年次のサマーインターンシップから参加していたため、長期化していると思う。 <文系女子>
- リクルートスーツが暑かった。それでやる気が削がれたことは否めない。 <理系女子>
- 大手の水面下の選考が多すぎて、受けている側はとても困った。 <文系男子>
- スケジュールが立てづらく、アルバイトでシフトの代わりに探したり、友人との約束を土壇場でキャンセルしなくてはならなかったりと困難でした。実質的な活動期間がとても長かったので、終わった後燃え尽き症候群のような状態が何日も続きました。 <文系女子>
- インターン参加により選考がスムーズになった企業が数社あったので、短期決戦とは言いながらも実質は夏インターンから就職活動は始まっていたのだと感じた。 <理系男子>
- 8月まで就職活動が続いていたら大学での研究時間がさらに削られたと思う。早く決まってよかった。 <理系女子>
- 中小企業の選考が早く始まったため、中小企業のことをより多く知ることができた。前年度までのスケジュールだと、大手の企業ばかりに注目し、大手病になっていたと思う。 <文系女子>
- 序盤に中小企業の選考を受けて、面接慣れすることができたのは良かった。 <文系男子>
- 8月に面接解禁だと思っていたので、5月に学会を2つ入れたところ、面接が5月に始まってしまい、両立が大変だった。 <理系女子>
- 8月以降に就職活動を終了するのが普通なのに、それまでに内定をとり終了した学生が周りに多かったので、精神的にしんどかった。先生からの「まだ就職活動終わらないの?」という空気を少し感じた。 <理系男子>
- いろいろな企業を見る機会が増えたところにはメリットがありましたが、やはり研究や他のことに時間を使いたかった気持ちがあります。 <理系男子>
- 企業にとってみれば8月から10月までの2カ月間で人材を確保しなければならないという点で短期決戦なのかもしれないが、就活生にとってはただ活動期間が長くなり負担が増えただけ。しかもこれからたった4カ月で卒論を作成しなければならない。どこまで就活生を苦しめたら気が済むのか。 <文系男子>
- 第1志望の企業に関しては、時間があり、しっかり対策できたからこそその内定になったと感じた。外資系に早い段階で内定をもらっていたことで、精神的にもよかったことが最終的に8月まで頑張るきっかけになったと思う。 <理系女子>